



第61号
平成18年(2006年)9月15日
発行者 〒567-8502
茨木市西安威 2-1-15
追手門学院大学校友会
会 長 平野 昌雄
電 話 072-643-6135
FAX 072-643-6099
©2006 編集責任 蟻 柴 潤一

大学創立四〇周年記念

校友会館建設に向けて

校友会会長 平野 昌雄



この度、大学四〇周年記念事業、および追手門学院一二〇周年記念事業の一環として大学敷地内に新たな交流の場となる校友会館建設が実現の運びとなりました。

校友会の皆様が母校を訪問された時、くつろげる場所の提供と在校生も一緒に利用できる会館作りをと考えております。

現在、事業委員会の中に建設委員会を設け色々な計画案が出ております。八月には設計施工を依頼する為、ゼネコン三社(大林、鹿島、竹中)を選定し、入札説明会を実施、九月にコンペ入札を行い、業者を選定したいと考えております。

十月の校友会総会、ホームカミングデーには、校友会の皆様にご報告できればと考えております。

校友会館の規模につき

2006年度 校友会総会及びホームカミングデーのご案内

開催日:2006年 10月 29日(日)
総 会:午前 11時~(大学食堂棟 3 階)
ホームカミングデー:正午~(同1階)
同時開催:アメ臣OB等によるコンサート
なつかしの写真パネル展示

思い出の1号館が取り壊されます。最後の姿を見学には是非お越しください。

ましては建設費約二億円、会館内には大学歴史記念室、事務室、会議室等検討しており、来年秋の完成をめざしております。これから校友会が益々発展、充実して行く為の活動拠点となります様校友会皆様には引き続きご協力、ご指導をお願い申し上げます。

文学部心理学科・人間学部心理学科卒業生の皆様へ

今年度のホームカミングデーに、心理学部発足を期に心理学科卒業生の集いをもちたいと考えております。

つきましては、資料や会場の都合がございますので、ご参加下さる皆様はメールで10月10日までに下記の宛先まで参加する旨のご連絡を下さいますようお願いいたします。詳細は、10月11日以降にメールでお知らせいたします。

なお、参加する旨のメールのタイトルは同窓会参加とし、その他氏名(旧姓)、卒業年度、ゼミ名などの情報も併せてお送り下さい。連絡先:otiai@haruka.otemon.ac.jp

心理学部心理学科 落合 正行

文学部社会学科・人間学部社会学科卒業生の皆様へ

今年のホームカミングデーに「社会学部支援同窓会」を立ち上げます。

場 所	大学食堂棟 3 階		
時 間	pm2:30~総会	pm3:30~卒論返却(今年かぎりでは廃棄処分とします)	pm4:00~パーティー
会 費	2,000 円		
備 考	卒論返却希望の方は「社会学部支援同窓会」のタイトルで必ずメールして下さい。		
連絡先	yoshida@res.otemon.ac.jp		

社会学部社会学科 吉田 正

宇田ゼミ O B の皆様へ

恩師・宇田正先生が3月末をもって追手門学院大学を退職されました。在任中に宇田ゼミ O B 会を開く予定でしたが、都合がつかず断念いたしました。

今年のホームカミングデーには、是非ともお越しいただき O B 会開催についてご相談させていただきたいと考えていますので、多くの O B の皆様に参加していただきますようお願いいたします。連絡先:akinolisu@yahoo.co.jp

宇田ゼミ 7 期 中井 隆

学院長・学長就任のご挨拶

学院長・学長 鈴木多加史



五月一日付で学院長・学長を拝命いたしました。教育界を取り巻く環境が厳しさを増す中、この重責を担うということは身の引き締まる思いがいたします。皆様方のご支援を賜りながら職責を果たしてまいりたいと考えておりますので、どうかよろしくご支援を賜りますようお願いいたします。

校友会の皆様方には、日頃母校のために絶大なご協力を賜り、感謝しております。日本国内はもちろん、諸外国におきましても有力な私学はいずれも強力な校友会組織を持つており、それが母校を支える大きな力となっております。

本学は今年創立四〇周年という節目の年を迎えます。四〇年という歳月は、初期の卒業生の方々の多

くが社会の指導的な地位に就いておられるという時期に到達させてくれました。それが現在の強力な校友会を形成しているのだと思っております。

ご承知のように、追手門学院は再来年二〇〇八年に創立一二〇周年を迎えます。大学創立四〇周年と合わせて、現在記念事業を推進しております。大学ではハードの面としては中央棟、六号館の建設、グラウンド、駐車場、バス乗り場の整備、入り口から校舎に続く桜並木、芝生広場の整備など、従来の面目を一新する工事を実施しております。入り口の守衛室は、建築の賞を受賞した斬新な建物です。最近大学に来ておられない校友の皆様は、是非一度大学において下さい。その変貌にきっと驚かれることと思います。

記念事業の一環として、校友会は大学に「校友会館」をご寄贈下さるご計画があり、目下協議をしております。これが完成いたしますと、校友会の拠点として大学に求められる校友の方々に気兼ねなくご利用戴けますし、他の同窓会組織や在校生も利用させて戴くことが出来る会館を目指してどの

追手門学院一二〇周年 記念事業と将来計画

心理学部長 落合正行



本稿では、追手門学院一二〇周年記念事業や大学の改組改革、将来計画について紹介します。

追手門学院は二〇〇八年に一二〇周年を迎え、大学では二〇〇六年に四〇周年を迎えています。学院では二〇〇三年から五カ年計画を立て、教育、財政、人事改革、キャンパス整備、経営システム改革など現在さまざまな計画が遂行中です。キャン

ような建物にするかを考えているところです。厳しい環境の中で、追手門学院大学を発展させていくことは容易なことではありませんが、教職員一同懸命の努力を続けております。校友会の皆様方のさらなるご支援をお願いしてご挨拶とさせていただきます。

ンパス整備では、幼稚園舎・大手前中央校舎の全面建替、小学校西館建替、大学における地域支援心理研究センター新築、図書館のリニューアル、宮本輝ミュージアム新設、グラウンド・駐車場整備、中央棟・六号館新築、一号館建替、研究棟リニューアル等が既に修了したり進行中です。その他、記念行事としては、式典、一二〇周年記念誌発行、

学部支援の同窓会を：提案

社会学部長 吉田 正



文学部アジア文化学科と英語文化学科を改組し、国際教養学部アジア学科、英語コミュニケーション学科を開設します。

一二〇周年以降の追手門学院や大学の将来の中長期の目標、特に教育に関する中長期の目標に関

今年、人間学部が改組されて、心理学部と社会学部が同時に誕生しました。来年度には、文学部が「国際教養学部」とな

しては、一二〇周年記念事業の小委員会の一つに教育構想委員会があり、ここで各学院の教育構想とともに学院の統一的な教育理念と実際の教育プランが策定され、その方針が打ち出される予定です。

学部が同時に誕生しました。来年度には、文学部が「国際教養学部」とな

次は私たちがなすべきことは、この「入れ物」にふさわしい教育の中身を構想し実行することです。学部学科の力や状況に見直して新たな状況に対応できるように工夫することは当然ですが、今まで周辺のなこととして見捨てられてきたことを再検討することも大切です。例えば学生に居場所やたまり場を提供すること、パーソナルな困難をいち早く察知して積極的に支援するよろず相談システムの構築、などです。

もう一つの事業として私が提案したいことは、この入れ物に卒業生も参加してもらって巨大な生涯学習ネットワークを構築することです。そのために、先ず校友会組織の分科会として各学部を支援する同窓会組織を下から構築することです。十月二十九日(日)のホームカミングデーに、心理学部は「心理学科卒業生の集い」を、社会学部は「社会学部支援同窓会」を立

ち上げる予定です。

「走りながら考える」オシムサッカーを見習って、出来ることから即やってみようではありませんか。

ホームカミングデーで入試説明会開く 卒業生教員対象

今年度よりホームカミングデー会場におきまして教育界で活躍されている卒業生の皆様を対象とした入試説明会を開催することとなりました。

説明会は入試相談を兼ねた個別の説明形式で、本学の入試制度の実状および二〇〇七年度入試の概要等をお話させていただきます。

また、貴重なご意見等もお聞かせ願えればと存じます。卒業生教員のご参加をよろしくお願いいたします。

時間 十二時から十三時半
場所 ホームカミングデー会場特設コーナー

アメ民OBが演奏

今年のホームカミングデーの会場では、アメリカ民謡研究会のOB等が、なつかしい青春時代のメロディを演奏してくれることとなっています。これを聴くだけでも値打ちもの！ぜひご来場を

少林寺拳法部 創部 40 周年記念祝賀会のご案内

少林寺拳法部は、来る平成19年3月11日 大阪市内のニューオータニ大阪で「創立40周年記念祝賀会を開催することとなりました。実行委員長は河瀬政彦氏、事務局は美濃岡伸也氏が行っており、参加者を募っているので、連絡をして下さい。

<事務局>

美濃岡 伸也 minooka@triton.ocn.ne.jp
神戸市東灘区住吉台 33-1 078-842-0403 携帯 090-5136-6608

平成18年度 収支予算書

平成17年4月 1 日から
平成18年3月31日まで

単位 円

科 目	予 算 額	前年度決算額	差 異
収入の部			
会 費	46,000,000	53,200,000	△ 7,200,000
受 取 利 息	30,000	33,121	△ 3,121
雑 収 入	0	0	0
大 学 周 年 事 業 寄 付 金	0	0	0
宮 本 輝 ミ ュ ー ジ ア ム 開 設 協 賛 金	0	753,000	△ 756,000
校 友 会 会 員 名 簿 関 係	0	0	0
次 年 度 以 降 計 上 会 費	0		0
収 入 の 部 合 計	46,030,000	53,986,121	△ 7,956,121
支出の部			
一般経費			
人 件 費	0	267,140	△ 267,140
会 報 印 刷 費	1,500,000	1,875,772	△ 375,772
そ の 他 印 刷 費	350,000	106,450	243,550
通 信 費	5,800,000	7,376,706	△ 1,576,706
交 通 費	30,000	0	30,000
消 耗 品 費	25,000	0	25,000
会 議 費	30,000	10,080	19,920
賃 借 料	50,000	48,300	1,700
慶 弔 費	20,000	0	20,000
名 簿 完 備 費	1,700,000	761,454	938,546
事 務 費	10,000	21,616	△ 11,616
用 品 費	0	0	0
雑 費	10,000	5,650	4,350
公 租 公 課	20,000	6,596	13,404
卒 業 記 念 品 代	8,600,000	5,719,000	2,881,000
広 報 費	500,000	201,600	298,400
謝 金	0	83,332	△ 83,332
入 学 記 念 品 代	1,000,000	94,290	905,710
創 立 4 0 周 年 記 念 事 業 費	1,000,000	0	1,000,000
学 友 会 活 動 援 助 費	500,000	0	500,000
大 学 祭 援 助 費	200,000	200,000	0
支 部 設 立 準 備 費	100,000	0	100,000
支 部 援 助 費	200,000	0	200,000
国 際 交 流 費	150,000	0	150,000
寄 付 金	1,556,207	4,200,000	△ 2,643,793
財 団 設 立 準 備 基 金 繰 入	23,000,000	25,026,272	△ 2,026,272
〔予備費〕	100,000	0	100,000
支 出 の 部 合 計	46,451,207	46,004,258	446,949
当 年 度 収 支 超 過 額	△ 421,207	7,981,863	△ 8,403,070
前 年 度 繰 越 支 出 超 過 費	15,698,927	7,717,064	7,981,863
翌 年 度 繰 越 収 入 超 過 費	15,277,720	15,698,927	△ 421,207

平成17年度 決算書

貸借対照表

平成18年3月31日

校 友 会			単位 円
資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	636,153,452	611,127,180	25,026,272
その他の固定資産	636,153,452	611,127,180	25,026,272
財団設立準備基金(特定預金)	636,153,452	611,127,180	25,026,272
流動資産	63,063,704	59,675,551	3,388,153
現金預金	63,063,704	59,675,551	3,388,153
資 産 の 部 合 計	699,217,156	670,802,731	28,414,425

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
流動負債	47,364,777	51,958,487	△ 4,593,710
未払金	8,570	82,280	△ 73,710
前受金	46,000,000	50,520,000	4,520,000
義援預り金	1,356,207	1,356,207	0
負 債 の 部 合 計	47,364,777	51,958,487	△ 4,593,710

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
財団設立準備基金	636,153,452	611,127,180	25,026,272
基本金の部 合 計	636,153,452	611,127,180	25,026,272

消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越 消費収入 超過額	15,698,927	7,717,064	7,981,863
消費収支差額の部 合 計	15,698,927	7,717,064	7,981,863

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部 合 計	699,217,156	670,802,731	28,414,425

平成18年6月26日

追手門学院大学 校友会 平成17年度決算

会 計 監 査 報 告

公正なる監査の結果、別紙諸計算書は、平成17年4月1日より、

平成18年3月31日までの校友会の保有する財産及び収支の状況

を正しく示しているものと認め、ここにご報告いたします。

追手門学院大学校友会

監 事 古 橋 忠 男

監 事 青 木 敬

資金収支計算書

平成17年4月 1 日から
平成18年3月31日まで

校 友 会		単位 円	
収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
一般収入	50,735,000	53,200,000	△ 2,465,000
会費収入	50,720,000	53,200,000	△ 2,480,000
名簿収入	15,000	0	15,000
寄付金収入	0	753,000	△ 753,000
宮本輝ミュージアム開設協賛金	0	753,000	△ 753,000
資産運用収入	40,000	33,121	6,879
受取利息配当金収入	40,000	33,121	6,879
前受金収入	0	46,000,000	△ 46,000,000
前受金収入	0	46,000,000	△ 46,000,000
資金収入調整勘定	0	△ 50,520,000	50,520,000
前期末前受金	0	△ 50,520,000	50,520,000
前年度繰越支払資金	59,675,551	59,675,551	
収 入 の 部 合 計	110,450,551	109,141,672	1,308,879

収支計算書

単位 円

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
会 費	50,720,000	53,200,000	△ 2,480,000
受 取 利 息	40,000	33,121	6,879
雑 収 入	0	0	0
大学周年事業寄付金	0	0	0
宮本輝ミュージアム 開 設 協 賛 金	0	753,000	△ 753,000
校友会会員名簿関係	15,000	0	15,000
次年度以降計上会費	0	0	0
収 入 の 部 合 計	50,775,000	53,986,121	△ 3,211,121
支出の部			
一般経費			
人 件 費	900,000	267,140	632,860
会 報 印 刷 費	1,500,000	1,875,772	△ 375,772
そ の 他 印 刷 費	350,000	106,450	243,550
通 信 費	5,800,000	7,376,706	△ 1,576,706
交 通 費	30,000	0	30,000
消 耗 品 費	30,000	0	30,000
会 議 費	30,000	10,080	19,920
賃 借 料	30,000	48,300	△ 18,300
慶 弔 費	20,000	0	20,000
名 簿 完 備 費	1,700,000	761,454	938,546
事 務 費	0	21,616	△ 21,616
用 品 費	0	0	0
雑 費	10,000	5,650	4,350
公 租 公 課	20,000	6,596	13,404
卒 業 記 念 品 代	8,600,000	5,719,000	2,881,000
広 報 費	0	201,600	△ 201,600
謝 金	0	83,332	△ 83,332
入 学 記 念 品 代	0	94,290	△ 94,290
学友会活動援助費	500,000	0	500,000
大 学 祭 援 助 費	200,000	200,000	0
大学祭行事参加費	0	0	0
支 部 設 立 準 備 費	100,000	0	100,000
支 部 援 助 費	200,000	0	200,000
国 際 交 流 費	150,000	0	150,000
寄 付 金	4,000,000	4,200,000	△ 200,000
財団設立準備基金繰入	25,000,000	25,026,272	△ 26,272
〔予備費〕	100,000	0	100,000
支 出 の 部 合 計	49,270,000	46,004,258	3,265,742
当 年 度 収 支 超 過 額	1,505,000	7,981,863	△ 6,476,863
前 年 度 繰 越 支 出 超 過 費	7,717,064	7,717,064	0
翌 年 度 繰 越 収 入 超 過 費	9,222,064	15,698,927	△ 6,476,863



追手門学院創立120周年・追手門学院大学創立40周年

『宮本輝ミュージアム』開設1周年記念



宮本輝氏 小栗康平氏 対談 『泥の河』を語る

主催：追手門学院大学・追手門学院大学校友会 後援：大阪市・茨木市・読売新聞大阪本社



平野昌雄校友会会長

二〇〇六年度追手門学院大学は創立四〇周年を迎え、校友会ではこれを記念して、大学と共催で『宮本輝ミュージアム』開設一周年記念イベントを開催しました。

五月二十七日(土) 雨の予報を吹き飛ばして、宮本輝氏(一期生)と小栗康平氏により『泥の河』を語ると題して、記念対談及び『泥の河』映画上映が一般市民を含め、満員の観客を集め本学学生会館大ホールにて開催されました。

鈴木多加史学院長・学長から『宮本輝ミュージアム』開設に至った経緯と謝辞が述べられた後、平野昌雄校友会会長から「母校に対する宮本輝氏の想いに深く感謝します。」との挨拶がありました。



宮本輝氏

また母校の設立当時の様子、大切な青春時代の思い出づくりに役かっつてもらおうと宮本輝氏の落款入り「青が散る」を新入生全員に贈呈したことなどの報告がありました。

『泥の河』は、宮本輝氏にとっては太宰治賞受賞の記念すべき作品であり、映画監督小栗康平氏にとつては自主制作の処女作ということで、思い出深い映画を誕生させるまでの秘話など野間裕子読売新聞大阪本社編集委員の司会によりお話をいただきました。



小栗康平氏

「小栗監督から映画化した」とお話があつたとき、この作品が映画になるのだろうか、また、作ることはできたとして、どこで公開するのか。小栗監督と同行して宮本氏をたずねたプロデューサーの方は、困ったようにネクタイを指でくるくると巻いてはのびしを繰り返していらした。などと楽しいエピソードもお話されています。

図書館では、当日の対談のビデオと同時に『泥の河』の舞台をたどる』と題したビデオも公開しています。宮本輝氏の幼なじみで、本学卒業生の一本松氏が『泥の河』の舞台となった安治川や、当時の思い出を楽しく語ります。



新入生に贈呈

追手門学院大学附属図書館内に併設された「宮本輝ミュージアム」に対し、標記の協賛金を募っています。

八月二十九日現在、特別会員を含む校友会員二〇四名の方から協賛をいただき、金額は二百萬四千元になっています。ご協力誠に有り難うございました。

寄贈して下さいました校友会員のお名前は次のとおりです。(敬称略)

寄贈者氏名 卒年・学科
中尾 極(八七・経営)
小野 紀子(八八・文庫)

宮本輝ミュージアム
開設協賛金寄贈
校友会会員一覧

恩師を訪ねて(1)

「大学の変化に思う」

名誉教授 小花和昭



今年三月末をもって、三十八年勤務した追手門学院大学を退職いたしました。心理学を学びながら多くの卒業生を世に送り出してきたことに、いま静かな喜びと感謝の気持ちを味わっています。

私が就任したのは昭和四十三年、開学三年目の大学はまだ建設途上といえる状況でした。教室は一号館と二号館だけで、研究棟も出来ていません。心理学は社会学と一緒に心理・社会学を構成していましたが、たしか心理学の一期生は二十五名前後だったと思います。

今からみれば何もかも貧弱でしたが、しかし学生は活発でした。今の学生よりも元気だったのではないかと思います。少人数でまとまっていたこと、教員との関係が近かったこと、そして何より

も、新しい大学の草創期を担うのだというような気概が、学生にも教職員にもあつたからだと思われまふ。

就任して何年目でしょうか、まだ助教のころ、私は大発見をしました。学生は毎年同じ年齢ですが、私は毎年一つずつ年をとるということです。あまりにも当然のことですが、ゼミが何かのときに、学生との年齢差が広がってきたことに気づいて愕然としたのでしよう。ずつと後年になって定年が近づくころには、若い学生と言葉が通じないとか、感性がちがうと感じるのは自然なことですが、私はそういう印象を結構早くにもつたようです。私の老けるのが早かったのか、時代の変化が速かったのか、まあ両方ということになっておきま

活躍する校友



衆議院議員

大塚高司氏

(89年卒・経営)

時代の変化で思い出しましたが、学生会館が出来たときに一つの議論がありました。こんなホテルのような贅沢なものを作って、という批判です。この価値観から今の大学をみたら、どこもホテルだらけで贅沢極まりないということになるでし

う。いろいろな要因で大学は変わりますが、とくに近年では、如何にして学生を集めるかという大学の生き残り策としての発想が大きな力をもっているようです。でも、立派な建物や新しい学部学科構成が、単に受験生の人気を集めるためというだけ

けでは淋しいことです。真に内実を伴った、新しい大学づくりが進められることを期待して止みません。

卒業生の皆さんも、それぞれの分野で精一杯活躍ください。それが母校の発展への最大の応援歌です。

校友会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。追手門学院が2008年に創立120周年を迎えますことは、追手門学院大学の卒業生としても、また「追手門」を愛する者の一人といたしましても、これ以上ない喜びであります。これも、創設者 高島頼之助先生の「地域社会、国家および国際社会において、指導的役割を果たしうる人間の創造」という建学の精神を受け継ぎ、学院ご関係の皆様が日々努力されてこられた賜物であると感じたいします。

現在、私は国政の場において、国土交通委員会・議院運営委員会・青少年に関する特別委員会に所属し、本学院で学んだ教育理念を胸に、日々努力邁進いたしております。

私といたしましても、国政の場からではございますが、本学院のさらなる躍進にむけ、校友会の皆様とも一致協力をして、力を尽してまいる所存でございます。最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



第62号
平成19年(2007年)2月20日
発行者 〒567-8502
茨木市西安威 2-1-15
追手門学院大学校友会
会 長 平野 昌雄
電 話 072-643-6135
FAX 072-643-6099
©2007 編集責任 蟻 栄 潤一



ホームカミング・デーに先立ち、午前十一時より大学食堂三階で校友会総会が開催されました。総会は蟻柴副会長を議長として始められ、平野会長から「母校四〇周年、さらに学院創立一二〇周年を目前に控え、キャンパス整備計画が進行しています。」

▼ おかえりやす追大で知られる「ホームカミング・デー」が將軍山祭のなか日の十月二十九日(日)、大学食堂一階の特設会場で四百人余りの参加を得て開催されました。今回はアメリOBのライブも開かれました。

ホームカミング・デー開催 アメリOBが演奏

校友会も母校に校友会館の建設を予定しており、在校生にも利用してもらえようなプランを計画しております」と挨拶。続いて活動報告に移り、十八年度の事業報告、収支決算報告がなされ、いずれも原案どおり承認されました。小題の後、食堂一階特設会場へ、おかえりやす追大へを合言葉にした「ホームカミング・デー」が会員ら四百余名の参加を得て開催されました。まず大木理事長の挨拶で始められ、鈴木多加史学長から「大学の発展のために卒業生の力をお願いしたい」と挨拶がありました。そのうち学内の部局長の紹



介があり懇親宴がはじまりました。今回はアメリカ民謡研究部OB(代表阿部和則さん三期卒)によるカントリーウエスタンバンドの演奏が計画され、阿部和則さんの「The Padst Grass」と北村伊住さん(八期卒)の「きたむらいずみ&フレンズ」のグループが当時を懐かしむブルースやカントリーソングを演奏し宴は華やかに盛り上がりしました。そして「来年もおかえりやす」の合言葉で盛会のうちに閉じとなりました。昨年に続き、開学当時の写真パネルの展示が行われ、あたりは四十年の月日を飛び越えて、現役の雰囲気

一九六六年四月に竣工し、四十年の歳月により、その耐震強度が現在の基準では保証されない調査結果が出たためです。開学当初より大学の歴史を見守り続けてきた一号館は、二〇〇七年五月に取り壊しが始まり、二〇〇八年八月、現在の地に新しい一号館として生まれかわる予定です。

一号館取り壊し



大学が
ロゴマークを制定
創立四〇周年を記念して知名度高揚のため、一月よりロゴマークを導入した。

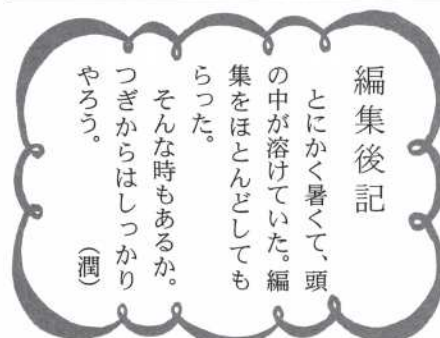
学院創立一二〇周年記念事業 「総合募金」のお願い

追手門学院常務理事
山中雅夫

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は大学・学院の教育・研究事業発展のためにご協力ご支援を賜り、まことに有難うございます。この場を借りて厚くお礼申し上げます。さて、一九六六(昭和四十一)年に創立された皆様の母校は今年創立四十周年を迎えております。また、学校法人としての追手門学院は、二〇〇八年に創立一二〇周年を迎えることとなりました。一八八八年、大阪鎮台司令官高島綱之助子爵により、大阪城前に偕行社附属小学校が創設されてから、明治、大正、昭和、平成と百十有余年にわたる歳月は、学院に幾多の試験を課してきましたが、この間学院関係者は一丸となって苦難の克服につとめ、今日では幼稚園か

ら大学院までの総合学園として、全国でも珍しい存在となっております。学院では、この一二〇周年という大きな節目を最大限に生かすべく、茨木(大学、中・高)大手前(大手前中・高、小学校、豊中(幼稚園)の全キャンパスでオール追手門をあげての記念事業を進行させております。大学においては、学部・学科の改組、地域支援心理研究センターの建設、図書館改修と宮本輝ミュージアムの開設、キャリア教育・インターンシップの拡充等、教育・研究体制の一層の充実を図ると同時に、グラウンドと駐車場の整備計画を推進し、キャンパスのエントランスゾーンは一新され、その変貌は目を見張るものがあります。また、坂道を登った正面大階段エリ

アでは、二〇〇六年十二月竣工予定の六号館(最新のIT設備を備えた大教室群)と地下一階地上十一階の中央棟(事務室と教育研究室等)の建設が進み、將軍山の台地に高くそびえるシンボリックなその外観は未来を臨むキャンパスの誕生を感じさせてくれることと思います。ところで、学院では昨年十月に創立一二〇周年記念事業総合募金(大学キャンパススリニユーアル計画を内包)を開始致しております。すでに関係各位から貴重なご芳志を頂戴いたしておりますこと、心よりお礼申し上げます。大学・学院では経費節減、原資拡大、各種補助金の獲得など自助努力を続けていますが、これらの記念事業を達成するためにはなお多額の資金を必要としています。ここに大学校友会会員各位の、募金活動に対する一層のご理解ご協力と、ご支援を重ねてお願いを申し上げる次第であります。



す。ご高配の程よろしくお願ひ申し上げます。末筆ながら会員各位の一層のご活躍を祈念してご挨拶とさせていただきます。謹白

創立120周年記念事業(2006年)行事予定一覧表

行 事	月 日	場 所
東田寿和氏とデューク更家氏 記念講演会	10月6日 (金)	茨木市ユアアイ ホール
歴史写真パネル展 (大学編)	10月29日 (日)	大学食堂ホール
山桜会90周年記念シンポジウム 「オール追手門に向けて」	10月29日 (日)	リーガロイヤル ホテル

追手門学院創立120周年 校友会山桜会90周年 記念コンサート

湯浅卓雄指揮(小学校73期生) 大阪フィル
ハーモニー交響楽団
2006年11月8日(水)
開場18:00 開演19:00 終了予定21:00
会場 ザ・シンフォニーホール
(JR環状線福島駅から徒歩5分)

入場料 大人6,000円
チケットの販売 同封の申込用紙参照

曲目
エルガー:
行進曲『威風堂々』第1番
二長調 op.39-1
ブリテン:
青年のための管弦楽入門
(パーセルの主題による
変奏曲とフーガ) op.34
マーラー:
交響曲 第1番
二長調『巨人』
他



コンサートの収益は
創立120周年総合募金に
充当いたします。

二〇〇六年、追手門学院大学は創立四〇周年を迎えました。本年二〇〇七年四月、文学部はその歴史に幕を閉じて、新たに国際教養学部としてスタートいたします。

校友の皆様方には、文学部の名が変わることにさまざまな思いを抱かれていますことでしょうか。なぜ、文学部が変わらなければならないのか、国際教養学とは何なのか、この新学部が追手門学院大学でどのような位置と役割を占めるのか、と。学部改組の経緯について、この機会を得まして校友会の皆様方にご説明し、ご理解を得たいと思います。

周知のように、追手門学院大学は文学部と経済学部



国際教養学部の開設にあたって

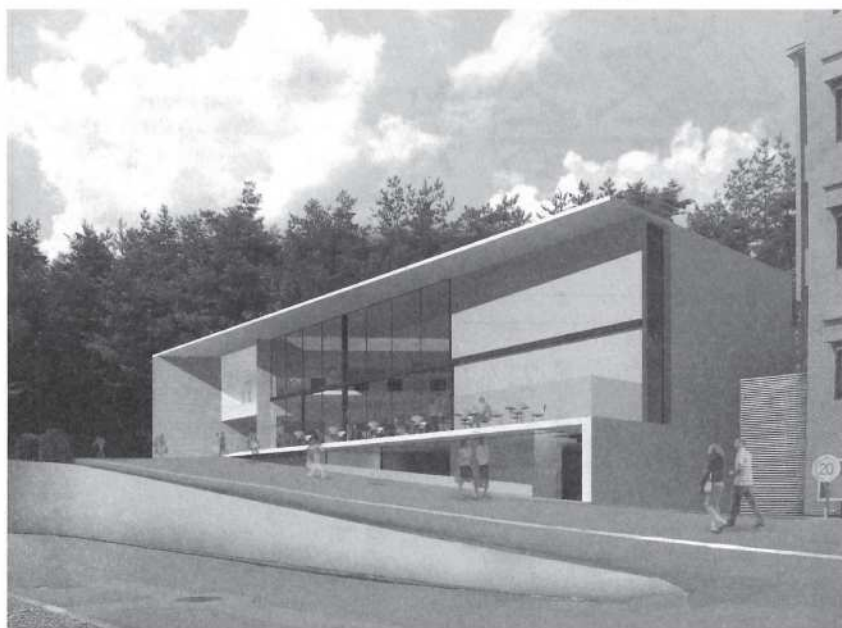
国際教養学部長(予定者)
重松 伸司

の二学部体制で発足しました。しかし、その後文学部から人間学部が、さらに二〇〇五年には人間学部から社会学部と心理学部が生まれ、大学という組織を一つの有機体とすれば、文学部は周囲の環境に適応しながら、絶え間なく細胞分裂してゆくさまに似ております。

「周囲の環境」と申しましたが、本学を取り巻く状況はまことに厳しいものがあります。少子化による受験生の激減、受験動向の変動、周辺校との競り合い、学生の基礎学力の低下、そして教員意識の保守化……。その影響は学部を直撃しています。「実学志向より趣味の醸成」、「好奇心の優れたオタク」、「好奇心の涵養」といったこれまでの文学部のイメージに、かなり厳しい視線が向けられております。そうした状況は、国公立大学の人文系学部

念願の校友会館の建設決まる

◆ 静けさの中に自己をみつめる場
◆ 風が抜け、緑地とつながる開放感
◆ 石積みの展示資料室 ― 時間の壁 ―
◆ 回遊できるレイアウト、バリアフリー



事業委員会や理事会で約一年間に渡り検討してきた校友会館が、十二月十二日の合同役員会にて最終決定されました。

待望の校友会館は、歴史を受け継ぎ未来へ繋ぐ空間を演出する場と校友や学生の交流の場として、また歴史を振り返り帰るステージと環境を提供する施設として建設されます。

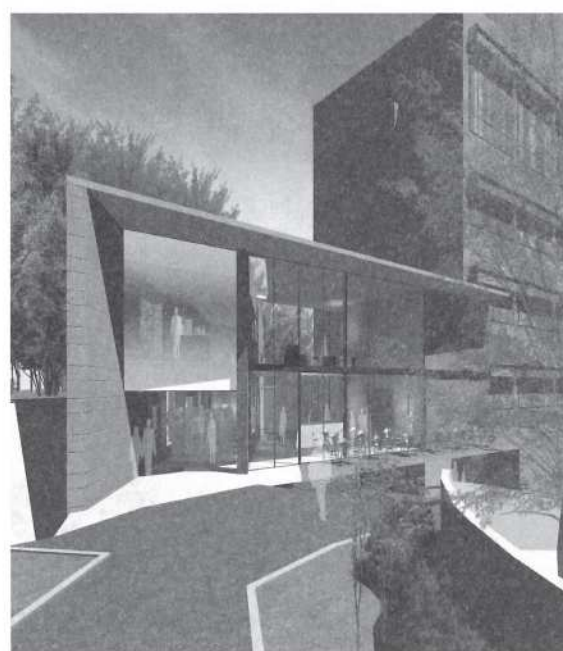
キャンパスに溶け込んだ開かれた校友会館で建物の規模は、高さを抑えたヒューマンスケールのものとし、外観イメージは、キャンパスの全体プランに即したモダンなイメージとなっています。開放的な建物は、風が抜け、豊かな周辺の緑に連続して、開かれた校友会館のイメージを作り出しています。

展示資料室は追手門学院大学と学院の歴史をパネルや展示物で飾り、建物の中を回遊できるようにレイアウトしてあり、追手門学院の歴史を巡ることが出来ます。

また、食堂への坂道に面して、オープンカフェが設

けられています。ここは行き交う人々の間にはコミュニケーションが生まれる場所となります。

中庭には野外ステージが設けられ、学生達の音楽演



奏等が繰り広げられ、学生が集うこととなるでしょう。他には、会議室や事務室なども設けられます。会館のオープンをお楽しみにして下さい。

探しています！

校友会館が建設され、その中に大学歴史展示室が設けられます。そこには追手の歴史的な物を展示したいと考えております。そのために、制服(通学服と式服)、体育実技の指定ウェア、当時のノート、教科書

ゼミの写真、クラブ活動の写真等を探しています。卒業生のみならず、このような物をお持ちの方がございましたら、大学へご寄贈又は貸し出しをお願いいたします。

連絡先 校友会事務局
〇七二一六四三一六二三五

特に文学部系に共通していますが、本学ではかなり顕著であります。

私も学部教員は、約二年をかけてこれまでの文学部について、さまざまな視点から議論を展開してきました。文学部として四十年間に達成してきた成果と反省一端的にいえば、卒業生や卒業生のご関係者、理事や役員や高校関係者からのご批判に必ずしも十分に答え切れなかつた点、そして、本学文学部に対する受験生からの関心の低下であります。

こうした課題について、我われは、学部として社会に送り出すべき人間像、学生のニーズ、人文系学部の動きを調べ、それらに対応

すべき教育目標、各教員の役割、世間の現状とこれからの動向、具体的カリキュラムと学部名称などを洗いなおしてきました。

学部が重視すべき基幹的なコンセプト、具体的には、「国際」「アジア」「欧米」「世界」や「英語」「文化」「教養」「コミュニケーション」「比較」「総合(文化)」などの内容と、我われの狙いが世間で通用するかどうかを検討してきました。毎回遅延くまで数時間に及ぶ議論を行い、各教員の担当科目の策定と細かなカリキュラム作成の作業、全般的な文書の作成と修訂、文部科学省との数度にわたる折衝と再検討を繰り返してきました。

同時に、学部長としまして、企業経営者や人事担当者からの聞き取り、就職状況の分析を行いました。そこから、次のような状況が明らかになってきました。

①就職には、在籍(卒業) 学部間の差はない

②実学と非実学の差ではなく、何を自分で学んできたかが重要(個々人の修得力の重視)

③職種・職能が何であれ、「アジア圏のことば(特に中国語)と英語」の習得とそれらを実践する応用力がこれからの最も重要となる(どのような状況でも生きていける)

④その前提として、基本となる日本語での表現力と理解力が必須

⑤情報や知識は重要。だが、その前に、どうして学生にその面白さを分らせるかが学部の使命。

「国際」と「教養」を連関させた新たな学部の方途は見えました。しかし、言うは易く行ふは難し。前途は多難です。皆様方のご協力と忌憚無きご意見を切にお願いいたします。



第二回海外セミナーでの天野学長との思い出

第一期生(経済学部経済学科)
阪神百貨店外商第一部長 辻村 龍彦

「セミナーでの学長との思い出」という御依頼をいただき、書斎(物置)を捜したところ、セピア色の英字新聞(THE HAWAII HO CH)が出てきました。その紙面には一九六七年八月三十一日の日付の下に天野学長を中央に、若かりし頃の私と学友が写っておりま

す。
サンフランシスコに降り立つたあの日、「外車ばかりやー」という声に学長は「今日からは君たちが外国人なんだよ」と我々の稚拙な外国観をたしなめられました。この企画が観光旅行ではなく「第一回の海外セミナー」であるという自覚を促された瞬間でした。(当時の募集パンフレットには「語学のみならず立派な国際人として通る紳士淑女!」を養成する」という文言があり、事実サンフランシスコ市役所に礼服で身を

固め表敬訪問したのです)天野学長旧知の教授がおられるスタンフォード大学を見学した折り、八月というのに図書館は猛勉強する学生で溢れ、我々はその熱心な姿に唖然としました。学期始めの違いがあるにせよ、学生の真摯な姿に日本の学生との違いを感じ反省させられました。私は留学生と間違えられ英会話ができず四苦八苦、天野学長に助けられたことを懐かしく思い出します。

ヨセミテ国立公園を散策中、学長は私に「帰国後は大学祭を今年こそ追大独自のものにしたい」と熱い思いを語られ、そのことが「將軍山祭」となり小・中・高・大学の交流や地域に開かれた大学祭と発展して今日に至っています。



1967年8月31日 ハワイ報知新聞

土が狭く資源も乏しいのによくやってきた」「日本のよさを認識した」等、感想を語り合いました。今では海外旅行は勿論、留学、ビジネスと海外での生活は当たり前になりましたが、当時は他大学に類を見ない画期的なセミナーでした。あこがれや美化されたものではなく、真の外国の姿を学生に体験させた天野学長の功績は大きいと思います。このセミナーの参加が私にとって多感な学生時代に外国を通して、日本をそして自分を見つめ、将来への礎となったように思います。

現在も続くこのセミナーがますます充実し発展することを心より願います。

天野利武初代学長との思い出

第一期生(経済学部経済学科)
校友会顧問 関 謙二

今は、中央棟が建設されて、なくなってしまうた一号館への正面からの階段を上がって来ると、二階に学長室があり、天野学長がいつも窓から坂道を登って登校して来る学生の様子を見おられたのが思い出されます。

私たち一期生は、大学祭、体育祭、体育会、文化会、学友会と最初から組織をつくらなければならず、天野学長に相談する事も多く、話し合いする機会が多くあり、直接に学長室へ伺っても、いつも気持ちよく応対して頂いた事は、今でも忘れられません。

また、天野学長の大学の将来についての夢をよく話をされ、私たちの希望や意見についてもよく聞かれました。

登校して来る私たちに二階の学長室から天野学長が、直接声をかけられて呼ばれた事を心より願います。

る事も多くあり、一期生にとつては、天野学長は、いつも近い存在でした。

大きな思い出の一つである第一回大学祭は、急に開催が決まり、短期間の準備にもかかわらず、学生の全員参加と大学教職員をはじめ大学建設中の工事関係者などの全面協力があった、手造りで開催したことです。

その時も、天野学長へ大学祭の費用をお願いしたところ、大学予算の予定がないにもかかわらず、当時(一九六六年)の金額で五十万円をすぐに出して頂きました。

天野学長との思い出は、まだまだたくさんありますので、また次の機会にしたいと思います。

心理・社会

同窓が集う

心理学部

これまで心理学科独自では同窓会の集まりを持つことがなかったのですが、本年度から心理学部となったことを一つの機会と考えて、とりあえず連絡のつく方々に呼びかけ、ホームカミング・デーに来学していただきました。

二〇〇六年十月二十九日(日)に、全学でのホームカミング・デーの催しの後、



心理学科卒業生と学科教員に小花和名誉教授を交え、旧交を温めることができました。

落合学部長の挨拶に続き、井上知子教授より「心理学科四〇年の沿革」としてこれまでの沿革と現況等(大学院を含む)の説明がありました。教員の陣容も大幅に変わっており、出席教員の自己紹介を行いました。

最後に三名の卒業生代表から挨拶と現況等の報告をいただきました。

急な計画ではあったのですが、三十名以上の卒業生に出席いただき、キャンパスの様子の変化に改めて時の流れを感じられた様子でした。地域支援心理研究センターの見学にも、多くの卒業生が参加されました。

社会学部は『ソキウス』



十月二十九日(日)母校食堂三階にて、ホームカミング・デーに引き続き、社会学部支援同窓会の設立総会を開催しました。吉田社会学部学部長はじめ矢谷、中嶋、山本、加村、善積、新野、古川各先生方にもご参加頂き、総勢七十六名で、社会学部支援同窓会『ソキウス』を立ち上げました。会長には一期生であり、本学の助教教授でもある新野三四子さんが選出され、役員と各学年の幹事を選び、規約と予算案を承認し、総会は無事に終了しました。また、

震災遺児奨学金に寄託

本会は阪神淡路大震災の発生とともに震災遺児の支援のために会員各位に義援金を募り、平成七年十一月に寄託をしました。義援金の募集は続けておりまし

た。

本年が震災発生から十二年を経過し義援金の募集を終了することになりましたので、それ以降も会員各位からのご厚志が集まり続けた義援金を平野会長、大橋、蟻柴両副会長、越智大学庶務課長が去る十一月十三日、



宮本輝ミュージアム 協賛金

一月二十五日現在、二百五名の方からご協力をいただいております。金額は二百一十四千円。ご協力誠に有り難うございました。

寄贈者氏名 卒年・学科
高橋 恒史(〇二・経営)

活躍する校友 (2)

(有) C. P. U. G.O代表取締役
櫻井 晋 (第千四期生・経営)



こんにちは、私は経済学部経営学科を平成五年に卒業し、現在は(有)C.P.U. G.Oという会社の代表を致しております。

この仕事は、ゲームのシナリオや企画をしたり、書籍(主に漫画やゲーム関連)の編集者として文章を書くことを生業としていたのですが、最近ではテレビアニメ「蒼天の拳」や「北斗の拳」のプロデューサーのような仕事をさせてもらっております。

やっている仕事と言うのは、大学時代と変わらない好きなことをやっているだけの日々なのですが、仕事にするとなかなか大変な毎日を送っております。

私の学生時代はというと、無所属委員会登録団体「漫画研究会シリウス」と「SF研究会オイドロイド」と言うサークルでオタクな先輩のもと生意気なこ

ともサークルゆえに好き勝手言わせて頂き、自分が代表になったときには機関誌シリウスを定期発行し校内に無料ではら撒こう!とか仲間と好き勝手趣味に興じていました。自分自身はサークルに入った時点でこんなに絵のうまいヤツがプロになりたいと言いがらも現実には「なれない世界」なかと改めて思いもし、編集やプロデュースに転向するという決心も致しました。その結果が今に至るわけですから結構いい学生生活を送ったなあと思います。

学生の時には一般生徒の中から浮いた存在だったと思いますが、後藤幸男学院長のゼミ生だったことであるような可能性について教えていただき、一度は普通の仕事を経験したのですが、二十五歳で結婚・起業と今の仕事に従事することになりました。仕事の都合で東

京に活動の本拠地を移すことになり、単身赴任となりましたが八年目を迎えますが学生の頃から交際していた家内のサポートもあり、好きなだけ働かせてもらっています。

この業界は実は仲間も多くSF研究会・漫画研究会の先輩は「新世紀エヴァンゲリオン」や「ブレイブ・ストーリー」と言うアニメを作った会社の起業にかかわっております。

私の在学前後ですと、漫画家になった「堂高しげる」君をはじめタイマーでキャラクターデザインをやっている「バミ夫」君、KONAMIからレッド・エントテインメントを経てフリーになった「川原浩」君、ほかにもゲームグラフィッカー、アニメーターなどなど、今のアニメ・ゲーム業界に多くの仲間がいると言っているのは、一部でのみ有名になっておりますが、まあ皆さんはわからない世界かもしれないですね(笑)

こんな私に、この場を与えてくださった校友会の方に深く感謝いたします。

最後に、そんな楽しかった仲間でまた遊びたいと思います。漫研・SF研の関係者はsakurai@cpug.comまたはSNS「mixi」の漫画研究会シリウスコミュに連絡を下さい。久しぶりなんかやいませんか?きつと楽しいと思います。「漫研シリウス」もまだあると聞いています。現役生もガンバレル!

卒業生の就業支援の拠点 「追手門学院大学オフィス阪急茨木」

三月一日に開設

バブル崩壊後の厳しい雇用情勢の中で、就職先が決まらないまま卒業していった卒業生や折角厳しい就職戦線を突破しても短期間で離職したり、職業ミスマッチのために転職を図りたいと希望して大学を訪れる卒業生が増加しており、卒業生はもとより保護者、後援団体からも組織的に卒業後の就職支援を望む声が年々大きくなっています。

これを受けて追手門学院大学では、大学四〇周年記念事業・学院一二〇周年記念事業の一環として、本年三月一日より阪急茨木市駅前(テナントビル「ソシオII」)に「追手門学院大学オフィス阪急茨木」を開設して、卒業生等の就業支援

サービスを開始することになりました。在学生だけでなく卒業生に対する就業支援をこれまで以上に強化することによって「面倒見のいい大学」を目指したいと考えております。

追手門学院大学の卒業生であれば、①専門のキャリアコンサルティングによる相談、②求人情報の提供、③企業の紹介、④就職に必要な知識習得のための指導・訓練、⑤就職に必要な各種証明書の交付などのサービスを受けることができます。お気軽にお立ち寄りください。

詳しい内容は、大学のホームページ(四月以降)に掲載いたします。

恩師を訪ねて (2)

「追手門学院大学」にも四十年間を歩んじ

名誉教授 遠山 嘉博



本学の創設は一九六六(昭和四十一)年四月一日で、経済学部と文学部の二学部でのスタートでした。私は創立メンバーの一人です。私から、四十年間の長年月を追手門学院大学とともに歩んできたこととなります。

一九六六(昭和四十一)年三月のある日、経済学部の創立メンバー十名足らずが学院小学校の一室に集まり初顔合わせをした後、大学の見学のためこの茨木の地を初めて訪れました。その時、一号館への上り階段のセメントはまだ乾き切っておらず、踏み板の上を歩いたことを、昨日のことのように鮮明に思い出します。それからちょうど四十年経った昨二〇〇六(平成十八)年三月末日を以て、名誉教授後の特任教授も退任しました。

この間の大学の発展は、実に目覚ましいものがあります。当初は一号館と二号

館の一部のみしかなく、図書館は一号館地階に間借りしてのスタートでした。ただ、図書館の新築は時期的には最も早く、一九六八(昭和四十三)年四月の体育館兼講堂の竣工に次いで、一九七〇(昭和四十五)年四月に完成しました。われわれも研究室はなく、高校の職員室のように大勢が雑居し、あちこちを転々としていました。こうした状況でのスタートから、現在は、建物はこの一月に完成した中央棟と六号館までで、学部も経済、経営、心理、社会、文(来二〇〇七年度より国際教養学部と改称予定)の五学部となりました。さらに大学院も、経済学研究科は博士前期および後期両課程が整い、文学研究科は博士前期課程までとなっています。全学生数は約五千八百名に、教員数も百三十余名に増えています。私個人としては、長

年の勤務にもかかわらず海外留学の機会に恵まれなかったことから、毎年ゼミ生を募集し、三十七期生まで送り出しました。毎年学生の応募が多く、第二志望の採用は二回ほどでした。最も多くのゼミ生が輩出しているのではないかと思います。

ゼミ生に限らず卒業生の諸君から、元気に仕事に励んでいるとか、幸せな家庭を持っているとかの便りをもらうことは本当に嬉しく、私の生き甲斐の一つとなっています。今後とも皆さんが健康で幸せな人生を送られ、大学の歴史をより輝かしいものにしてくれるように切に期待しています。

現代日本の写真に 掲載

多彩で多様な「いま」の写真表現を展望する写真集に、校友会員の須藤秀澤氏(九十六・経済)が掲載された。写真集はART BOX 1 Z JAPANの七巻。

須藤氏は現在、英国王立写真協会の会員でもある。

追手門学院大学附属図書館『宮本輝ミュージアム』

「ひとたびはボプラに臥す」展開催

北日本新聞社共催、講談社協力



左から三崎図書館長、鈴木学長、大木理事長、宮本輝氏、北日本新聞梅沢社長、講談社中島部長

『宮本輝ミュージアム』

では、一九九五年から一九九九年にかけて北日本新聞に連載された「ひとたびはボプラに臥す」展を十月二日から十一月三十日までの間、北日本新聞社と共催で開催しました。十月二日には、開会式を行い、宮本輝氏、梅沢直正北日本新聞社長、講談社中島隆文芸図書第一出版部長、大木追手門

学院理事長、鈴木多加史学長、三崎一明図書館長がテープカットを行った後、鈴木学長が開会を宣言しました。

「ひとたびはボプラに臥す」展の展示は、約二ヶ月間に渡り、宮本輝氏及び北日本新聞社の協力により、未公開写真、新聞連載記事(全ページのコピー)、取材ノート、旅の土産物、特大旅の足跡図(タペストリー)などを行い、来館者に非常に好評を博しました。

十月十八日には、重松文学部長の協力により、本学アジア文化学科の授業を一般公開し、シルクロードの旅で宮本輝氏と同行された北日本新聞社文化部、大割範孝記者に現地の貴重な体験をスライド上映とともに講演をいただきました。来場者には展示、講演ともども非常に好評をいただきました。

創立一二〇周年記念事業

デューク更家氏
とともに

二〇〇六年十月六日に茨木ユースアイホールにおいて、学院創立一二〇周年・大学創立四〇周年記念講演会が開催されました。

プログラムは、鈴木学院長・学長の挨拶に始まり、一部は東田寿和氏（追高二十一期生、大学十期生）によるフォーークソングライブ。二部はデューク更家氏による講演・ウォーキングエクササイズ。三部は輝け「命と健康」をテーマとした討論会を実施し、ゲストの河口正史氏、巽樹理氏、中高生徒会代表二名、大学校友会代表二名が討論に参加しました。総合司会は大学客員教授の寺谷一紀氏が行い、



討論会のプロデュースも担当されました。

当日は天候が悪かったにもかかわらず、茨木市民など一般の皆様が多数参加され、入場者数は六百名を超えました。参加していただきました大学校友会の皆様方に御礼申し上げます。

シンフォニー
ホールでは

追手門学院創立一二〇周年・校友会山桜会九〇周年を記念したコンサートが二〇〇六年十一月八日にザ・シンフォニーホールにおいて開催されました。

記念コンサートには、近年国際的に活躍を見せる日本人指揮者の湯浅卓雄氏（追小七十三期生）をお迎えし、大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏を指揮する本格的なコンサートとなりました。

当日観客席には、小学校から大学の児童・生徒・学生、及び卒業生・保護者・ご来賓・ご招待企業等の皆

様方が集まり、「オール追手門」にふさわしい千五百名を超える大コンサートとなりました。

茨木・大手前学舎の中・高生と引率の先生方は開演が午後七時からとゆうこともあり、授業を終えてから、集団行動にてスクールバスや電車で会場へ向かいました。

コンサートに参加した「追手門ファミリ」の児童・生徒は芸術鑑賞としての社会勉強の一端に、また、保護者・卒業生・教職員の皆様方にとっては心に残る演奏会となりました。



編集後記

原稿がたくさん集まった。嬉しい限りであるが、困った。文章に秘められた想いをそのままに短くするのは、(潤)

追手門学院大学創立40周年記念

国際教養学部開設記念 講演とシンポジウム

2007年3月17日(土) 14時から

かねてより追手門学院創立120周年並びに追手門学院大学創立40周年記念事業の一環として、中央棟(地上11階、地下1階)、6号館(地上2階)の建設並びに松籟庵(日本文化研修道場)の改修を進められていましたが、このほど無事に完工となりました。また、本年4月には文学部改組により、国際教養学部が開設されます。これらのことを記念いたしまして記念行事が執り行われますので、校友のみなさんのご参加をお待ちしております。

「変動する世界・変貌する文化ー21世紀社会の国際教養を考えるー」

第一部 記念講演「夢を創造するかたち」

講師：声楽家・劇画家 池田理代子氏

第二部 シンポジウム「21世紀社会の教養と大学の役割」

パネリスト：池田理代子氏(声楽家・劇画家)

帯野久美子氏(イター外・ジャパン代表、本学客員教授、本学第6期卒業生)

佐藤友美子氏(サントリー一次世代研究所部長)

コーディネーター：重松伸司(国際教養学部長予定者)

問い合わせ先：創立120周年記念事業事務局「記念講演会」係

〒567-0008 茨木市西安威2-1-15 TEL072-641-9720

先着300名(無料) 締め切り日 3月12日(月)

* 当日は、中央棟、6号館の見学も出来ます。